

シリーズ 集落活動センター vol.3

集落活動センター 西峰

～大豊町内に5カ所ある、集落活動センターの取り組みをシリーズで紹介していきます～



集落活動センター西峰の拠点「ひだまり」



向かいには、消防屯所と簡易郵便局



コンテナ苗の育苗ハウス

大豊町の集落活動センター第1号

西峰地区は、地区長、民生委員、老人クラブ会長、自主防災会長、公民館関係者及びヘルスメイト等が主体となって「西峰地区活性化推進委員会」を結成し、運営母体となって2015年3月に集落活動センター西峰がスタートしました。施設には、冷涼野菜集積所やへき地診療所も設置され、住民の憩いの場・集いの場として、西峰地区住民の生活の拠点となっています。

集落活動センター西峰は、産業部会、生活・安全部会、交流部会で構成され、西峰園芸組合及び猟友会等も含め地域のほとんどの活動団体が網羅されています。そのため活動内容は、道路の草刈り等の共同作業、つつじ祭りなどの交流会、園芸品の共同出荷など従来通りですが、新たに始めた取り組みに「スギ・ヒノキの育苗」があります。計画段階では、シイタケの栽培、ニワトリや烏骨鶏の飼育など、いろいろなアイデアがあったそうですが、種まきから1年～1年半で出荷でき、作業も比較的楽だという理由で「スギ・ヒノキの育苗」に決まったそうです。今回は、センター長の笹岡修一さんに詳しく伺ってきました。

スギ・ヒノキのコンテナ苗

コンテナ苗は多孔容器で育苗される苗木で、培土と根が一体となった「根鉢」を形成した苗木です。普段は5～6名が当番制で水やりなどの管理をし、植え替えや出荷など人手のいる作業の時は、他の方にも声をかけて人員を集めます。初めは試しに約3000本からスタートしましたが、今では5万本ほどあるそうです。

出荷の単位は70本～3000本と様々で、高知県種苗緑化共同組合を通じて注文が入るそうですが、注文の多い春と秋に合わせて育てるのが難しいとのこと。出荷には基準サイズがあり、杉（35cm以上、直径4mm以上）檜（35cm以上、直径3.5mm以上）、これ以下のサイズや曲がり、根の張り状態によっては出荷できません。今のところ、植えた苗の7割程度しか商品になってないので、品質向上が今後の課題だそうです。また、施設は6万本収容可能に整備されていますが、さらなる人員の確保が必要になってくるので、既存の住民だけでは難しいようです。

西峰は大豊町の中でも高齢化率が高く、元気な方が多いとはいえ、こちらでも最大の課題は「事業継承」だといえます。6年かけて形にしてきたこの事業を、今後も続けていただきたいものです。（野田由美子）

スギ・ヒノキのコンテナ苗づくり過程



会員・応援サポーター募集中！

「NPO法人元気おおとよ」は、大豊町を元気にすることを目的に、集落維持、文化の継承、地域交流、移住促進などの地域活性化活動に取り組んでいます。

イベント等一部の活動にのみ参加する一般会員や、直接活動に参加できないが寄付というかたちで活動を支援する賛助会員などを、募集しています。大豊町に想いのある方、是非ご協力をお願いします！

詳しくは、
野田（080-8635-2253）まで
お問い合わせください。

移住者紹介 コーナー



ふたがみ りょうじ
二神 良次 23歳

今回の移住者紹介は、愛媛県西条市出身の「二神 良次（ふたがみ りょうじ）」さん（23歳）です。今年の4月に就職のため大豊町に移住されてきた二神さんに色々お伺いしてきましたのでご紹介したいと思います。

なぜ大豊町に？

大学の時、インターンシップで高知県に来ていた時に、人が良くて高知はいいなと思っていました。また自分が生活しやすい土地として自然が多いところに住みたいと考えようになったのが始まりです。

その後、高知県の林業大学校に通うことになり、その時ぐらから高知の田舎に住みたいと決めました。

林業大学校時代にインターンシップに沢山に行き就職先も色々あったのですが、大豊町は実家にも帰りやすいし、田舎なのに交通の便が良いところが気に入って大豊林業さんへの就職が決まったので大豊町へ移住して来ました。

《詳しいインタビューは裏面をチェック！》

今の仕事はどうですか？

林業大学校では基礎的なものは習いましたが、実践で直ぐ働けるわけではないので、現場での仕事の仕方を一から学んでいるところです。

山に入っているのも好きですし、職場の人たちもいい人ばかりで楽しく仕事させてもらってます。

周りの人から怪我をした噂を色々聞くのですが大丈夫？

仕事に不慣れなこともあり、ワイヤー針が腰に刺さったり、手の骨を少し折ったり、チェーンソーで少し切ったりしました。林業は気をつけていても怪我が付きものなところもありますが、怪我をしないようより一層気をつけていきたいです。

大豊町の暮らして困っていることは？

湿気がこんなに多いとは思いませんでした。服とか色々かびさせてしまって、乾燥機買わなければと思っています。あと、夏場がなかなかキツイですね。今年はクーラーなしで過ごしましたが、来年は買わないといけなかなと思っています。

あと、冬場の雪道が心配ですね。西条市は滅多に雪は降らないので、..



休みの日はどんなことをしていますか？

映画を観たり、漫画を読んだりですかね。あと、コロナであまり行けるところがなかったので、好きなラジオを聴きながらドライブしたりしています。

今後、大豊でやってみたいことや目標はありますか？

今は、仕事や生活に慣れることが先決なので特にはないのですが、やりたかった田舎での生活をゆっくり楽しみたいと思っています。

今回の移住者紹介いかがだったでしょうか。23歳の若さで大豊町に来てくれて本当にありがとう！！と心の中で思いながらインタビューして来ました。

二神さんは、NPOの事業で空き家の掃除をした物件に住んでいますが、コロナのこともあったのであまり声かけもできず元気でやっているか心配でした。でも今も元気そうで良かったです！

インタビューの最後の方は、筆者もラジオが好きなので、好きな番組の話題で盛り上がってしまいました。二神さんは芸人のラジオが好きで、今は霜降り明星のオールナイトニッポンをよく聴いているそうです。筆者も同じくオールナイトニッポンをよく聴くのですが、ラジオの話題ができる人が周りにいないのでテンションが上がってしまいました（笑）

それでは、今回の移住者紹介はここまで！最後に、怪我には特に気をつけてしっかりと林業の技術を磨いて欲しいと思える若者でした。（猪野大助）

ピックアップ in おもとよ

私たち「NPO法人元気おもとよ」のいくつかの部会の中に「環境部会」があります。危機を叫ばれている地球環境問題の中で特に「地球温暖化」について取り組んできました。学習会や水力発電所の視察、またアメリカの元副大統領、アル・ゴア氏のドキュメンタリー映画「不都合な真実」の視聴会、そして、この新聞で地球温暖化の記事を連載しました。

それは、2018年8月20日の月曜日に始まりました。当時15歳のグレタ・トゥーンベリさんは、ほんの一抱えのビラと、スウェーデン語で「気候のための学校ストライキ」と書かれた板のプラカードだけを持ち、国会議事堂の前で座り込みを行いました。最初は注目する人はほとんどいませんでした。しかし、7ヵ月後の2019年3月15日の金曜日には、学校ストライキを世界全体で同時に行うことが呼びかけられました。128カ国の2000の都市や町で、140万人以上がストライキに参加し、世界の首脳に対して、大きな声ではっきりと次のメッセージを発しました。「手遅れになる前に、気候変動対策を今すぐとらなければならない」。



「気候変動に立ちむかう子どもたち」

世界の若者60人（13歳～30歳）による自分の国の現状や活動、そして世界へ向けての主張などの作文集。ケニアの高校生は、サッカーでゴールを決めるごとに木を一本植える活動をしていて一緒に取り組もうと呼びかけています。



「図解でわかる 14歳からの脱炭素社会」

SDGsがめざしている世界を、絵やイラストをふんだんに使ってとても分かりやすい説明しています。



「環境破壊図鑑」 (藤原幸一：生物ジャーナリスト、写真家、作家)

5大陸、120カ所のレポート。もう二度と見ることができないかもしれない「地球」の今を活写した写真集です。



中学生のみなさんへ

英雄のように取り上げられたグレタさんは、称賛されたり持ち上げられたりすることを良しとはせず、自分がこの運動のリーダーというわけではない、と明言し、次のように述べました。「まずは正しい知識と事実を知ることが大切です。」と述べ、「私たちは恵まれた環境にいて、私たちの訴えは繰り返し報道されています。でも、本当に伝えられ、耳を傾けられなければならないのは、私たちの声ではないのです。」と、世界中で気候変動の危機と戦っている他の若者たちに注目するようにと、メディアに呼びかけました。

現在、多くの国で若者たちが地球の環境問題に声をあげ、活動を行っています。新聞紙上では毎日のように関連記事が見られます。10年前だったとは思わずにはいられませんが、それでもまだ間に合うという声もあります。未来のある皆さんのためにも、これ以上の環境破壊はあってはならないと願わざるを得ません。前書きが長くなりましたが、今回は中学生のみなさんへのお願いです。

私たちが学習などで参考にさせてもらった図書3点を進呈させていただきます。図書室や学級文庫に置いて、少しでも多くのみなさんに読んでいただけたらありがたいです。よろしくお願いします。（鄙）